

エコ・アンケート結果について

(小中学生版「環境にやさしいライフスタイル実態調査」)

本調査は、平成12年12月に閣議決定された第二次環境基本計画の着実な実行を確保するための点検の一環として、国民の環境保全に関する取組の状況等の把握を目的に実施した調査と平行して、平成16年3月5日から3月30日にかけて、全国の小中学校の中から無作為抽出した計72校の小学5年生及び中学2年生の各1学級を対象に実施したものである(有効回答数は2,221人)。

調査結果の概要は以下のとおり。

1. 身のまわりに環境については、「森や川などの自然が豊かである」「野生の動物や昆虫などたくさんの種類の生き物がいる」と認識する子どもは過半数を超えるが、海や河川、道路などの汚染を認識する子供も多い。
2. 環境問題についての関心領域は幅広く、特に「森林減少」「水質汚濁」「大気汚染」「地球温暖化」に対する関心が高い。
3. 環境問題に対する考え方としては、「ものの無駄づかいをしたり、大量のごみを出したりする今の生活は、改めた方がよい」「環境問題は自分にも影響がある問題だと思う」「将来の環境のことを考えると心配だ」「環境を守ると生活が豊かになる」という考え方は広く浸透している。
4. 日常行っている環境行動として「使わないときは、水道の蛇口をきちんと閉める」「使わないときは、テレビや部屋などのあかりを消す」「ごみを、燃えるゴミ、燃えないゴミ、資源ゴミにきちんと分別する」「ものは長く使えるように大切に使う」という行動はほぼ定着しているが、「買い物するとき、レジ袋をもらわないように気をつける」「地域の人が木や花を植える時には参加する」「家族や友達などと環境問題について話し合う」の実施率は約2割以下にとどまった。
5. 環境保全行動は、母親・学校・テレビの影響で始めた子どもが多い。特に小学生で学校、テレビ、女子で母親、学校の影響が強い。
6. 環境保全行動を行った際の気持ちは「あたりまえのことをしたと思った」「気持ちよくなった」「世の中にとって良いことをしたような気持ちになった」「もっと行おうと思った」が上位にあり、環境保全に前向きな姿勢があらわれている。
7. 環境保全行動に対する今後の実施意向は、「使わないときは、テレビや部屋などのあかりを消す」「使わないときは、水道の蛇口をきちんと閉める」「ものは長く使えるように大切に使う」の行動意向が8割前後と高い。
8. 環境保全に重要な役割を担うものとしては、「日本政府・国」をあげた割合が29%で最も高い。
9. 環境問題に関する情報は、「テレビ・ラジオで」(72%)、「学校の授業や先生から」(65%)が2大情報源となっている。小学生は「学校の授業や先生」、中学生は「テレビ・ラジオ」が最大の情報源。
10. 学校における環境保全活動への参加経験としては、「環境問題について、先生の話聞いた」(62%)、「ごみ処理場や下水処理場などの施設を見学した」(50%)、「地域の掃除やごみ拾いなどに参加した」(46%)が5~6割にのぼる。また、全般的に10万人未満での活動が活発で、10万人未満の参加経験率は「環境問題について、先生の話聞いた」「植物栽培や動物の飼育、観察をした」「山や川などで自然の観察をした」「みんなで環境問題の解決方法について話し合った」が全体を大きく上回っている。
11. 「こどもエコクラブ」の認知率は24%で、小学生は32%と高い。

．アンケートの目的および実施状況

1．調査目的

環境省の諮問機関である中央環境審議会では、政府の環境保全に関する総合的かつ長期的な施策の大綱を定めた「環境基本計画」の進捗状況の点検を、毎年、実施している。この点検のため、国の各府省の取組状況に加え、アンケートにより国民や民間団体の取組状況等も調査することとしているが、本調査「エコ・アンケート」は、国民の取組状況調査の一環として、成人（20歳以上）を対象としたアンケートと共に、全国の小中学生（小学5年生及び中学2年生それぞれ1,000名程度）を想定して抽出した学校の児童・生徒を対象に実施したものである。

2．実施状況

全国の小学校41校、中学校31校を全国から層化無作為抽出し、小学校は第5学年、中学校は第2学年の各クラスに回答するように依頼し、調査は教師のガイダンスに従う自記式で実施した。

有効回答数は計58校（2221人）、学校を母数とした場合の有効回答率は80.5%であった。

3．回答者属性（ ）内%

(1) 学齢別

小学校	中学校
1265 (57.0)	956 (43.0)

(2) 性別

男子	女子
1112 (50.1)	1097 (49.4)

(3) 都市規模別

政令指定都市	10万人以上	10万人未満	町村
237 (10.7)	1018 (45.8)	379 (17.1)	587 (26.4)

(4) 地域別

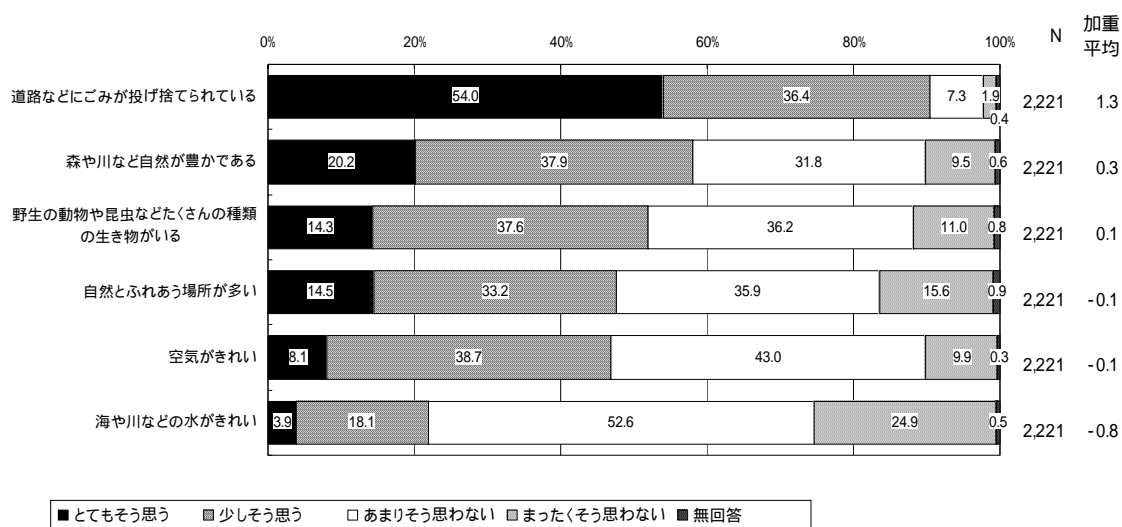
北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州
267 (12.0)	560 (25.2)	95 (4.3)	377 (17.0)	400 (18.0)	224 (10.1)	298 (13.4)

集計結果の概要

1. 身のまわりの環境認識（問1）

「森や川などの自然が豊かである」「野生の動物や昆虫などたくさんの種類の生き物がいる」と認識する子どもは過半数を超えるが、「海や川などの水がきれい」と認識は22%にとどまる。一方、90%が「道路などにごみが投げ捨てられている」と認識している（図表1）。

図表1 身のまわりの環境認識（全体）

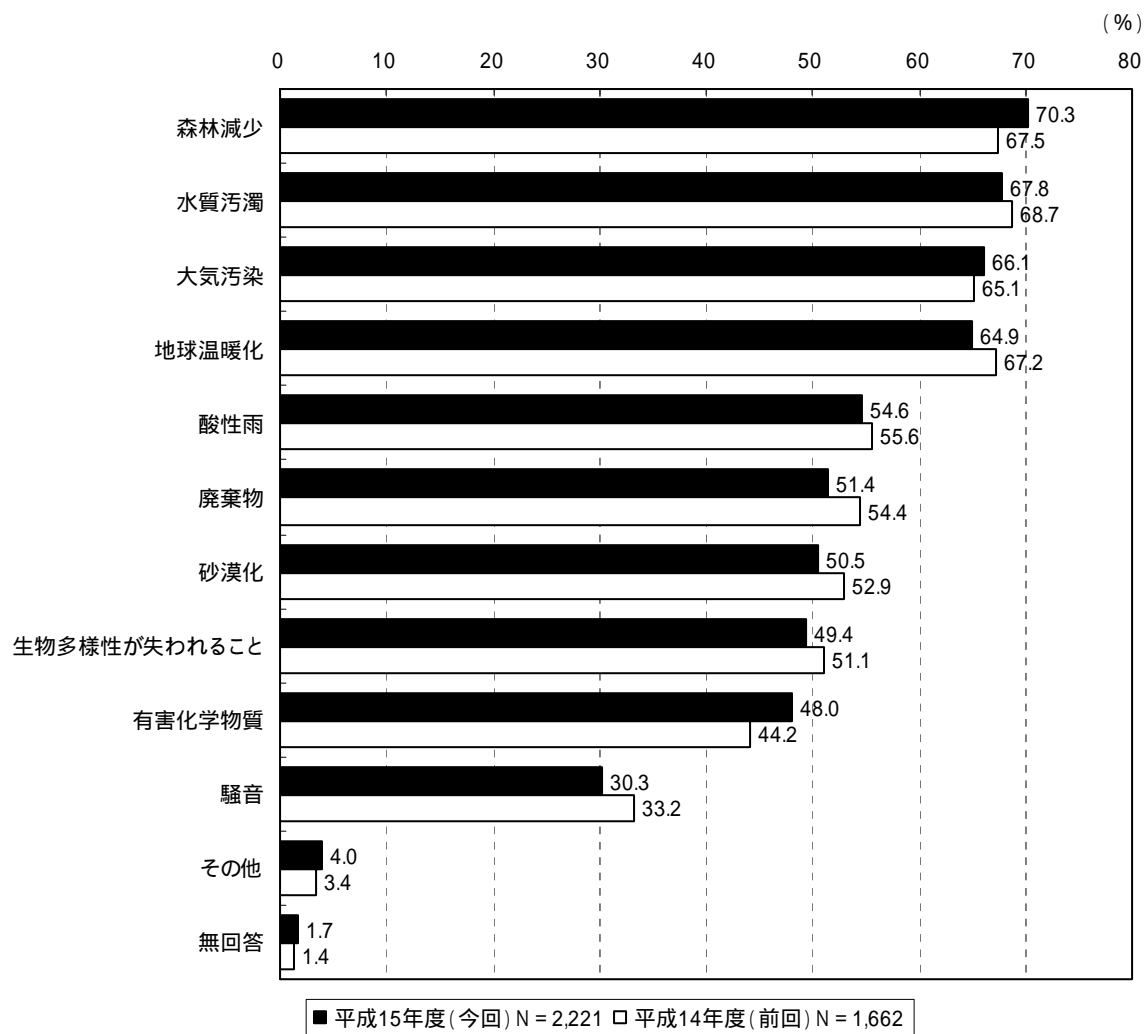


注) この項の加重平均は、「とてもそう思う」に2点、「少しそう思う」に1点、「あまりそう思わない」に-1点、「まったくそう思わない」に-2点を与えて算出した。

2. 環境問題の関心（問2）

環境問題についての関心領域は幅広く、特に「森林減少」「水質汚濁」「大気汚染」「地球温暖化」に対する関心が高い（図表2）。

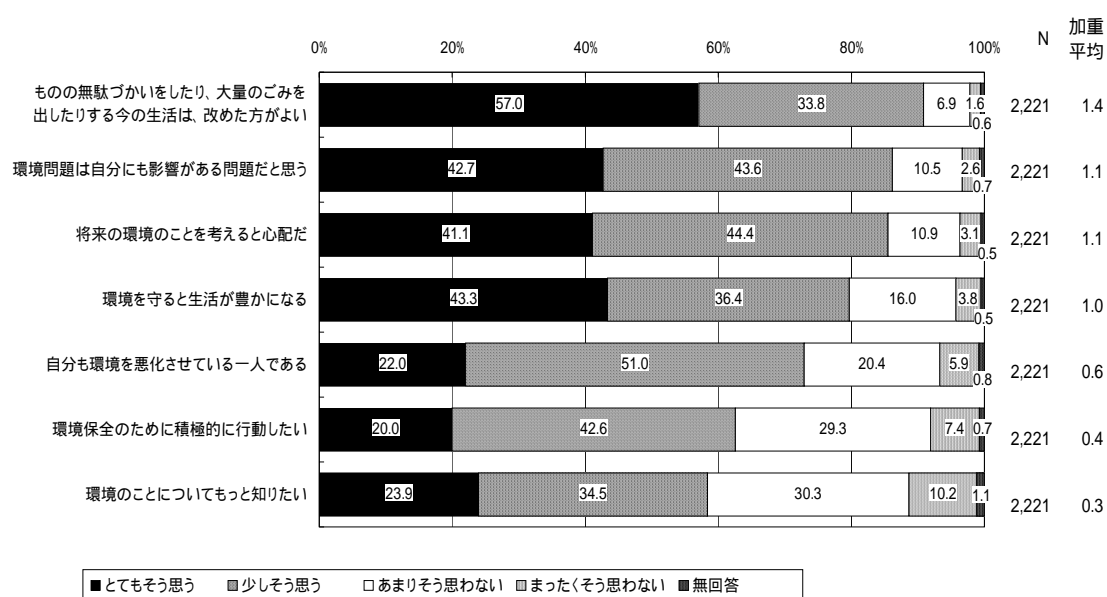
図表2 環境問題の関心（複数回答）（全体）



3. 環境問題に対する考え方（問3）

「ものの無駄づかいをしたり、大量のごみを出したりする今の生活は、改めた方がよい」「環境問題は自分にも影響がある問題だと思う」「将来の環境のことを考えると心配だ」「環境を守ると生活が豊かになる」という考え方は広く浸透している。しかし、「環境保全のために積極的に行動したい」「環境のことについてもっと知りたい」といった自分自身の生活や行動に関わる意識はやや低い（図表3）。

図表3 環境問題に対する考え方（全体）



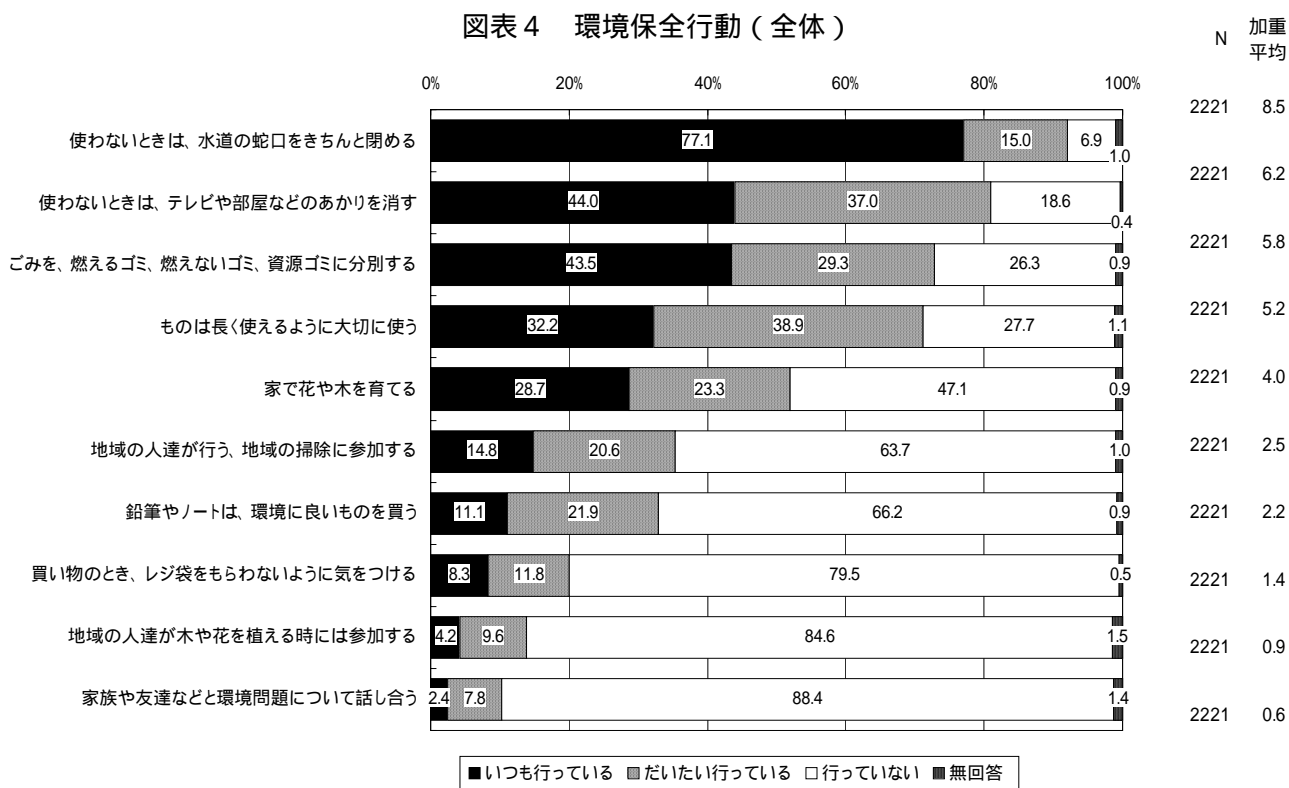
注) この項の加重平均は、「とてもそう思う」に2点、「少しそう思う」に1点、「あまりそう思わない」に-1点、「まったくそう思わない」に-2点を与えて算出した。

4. 環境保全行動の実態と今後の意向（問4）

4-1 環境保全行動

「使わないときは、水道の蛇口をきちんと閉める」「使わないときは、テレビや部屋などのあかりを消す」「ごみを、燃えるゴミ、燃えないゴミ、資源ゴミにきちんと分別する」「ものは長く使えるように大切に使う」という行動はほぼ定着している。しかし、「買い物するとき、レジ袋をもらわないように気をつける」「地域の人たちが木や花を植える時には参加する」「家族や友達などと環境問題について話し合う」の実施率は約2割以下にとどまった（図表4）。

図表4 環境保全行動（全体）



注) この項の加重平均は、「いつも行っている」に10点、「だいたい行っている」に5点、「行っていない」に0点を与えて算出した。

4 - 2 環境保全行動の契機（問5）

環境保全行動は、母親・学校・テレビの影響で始めた子どもが多い。

小学生は中学生に比べ「学校で環境について勉強したから」「テレビで見たから」「環境問題に関心があったから」「本で読んだから」「地域の行事に参加したから」「祖父母にいわれたから、祖父母がやっていたから」「近所の人やっていたから」という回答が多くみられる。

性別にみると、女子は男子よりも「母親にいわれたから、母親がやっていたから」、「学校で環境について勉強したから」という回答が多い（図表5）。

図表5 環境保全行動の契機（複数回答）（学齢別、性別、都市規模別）

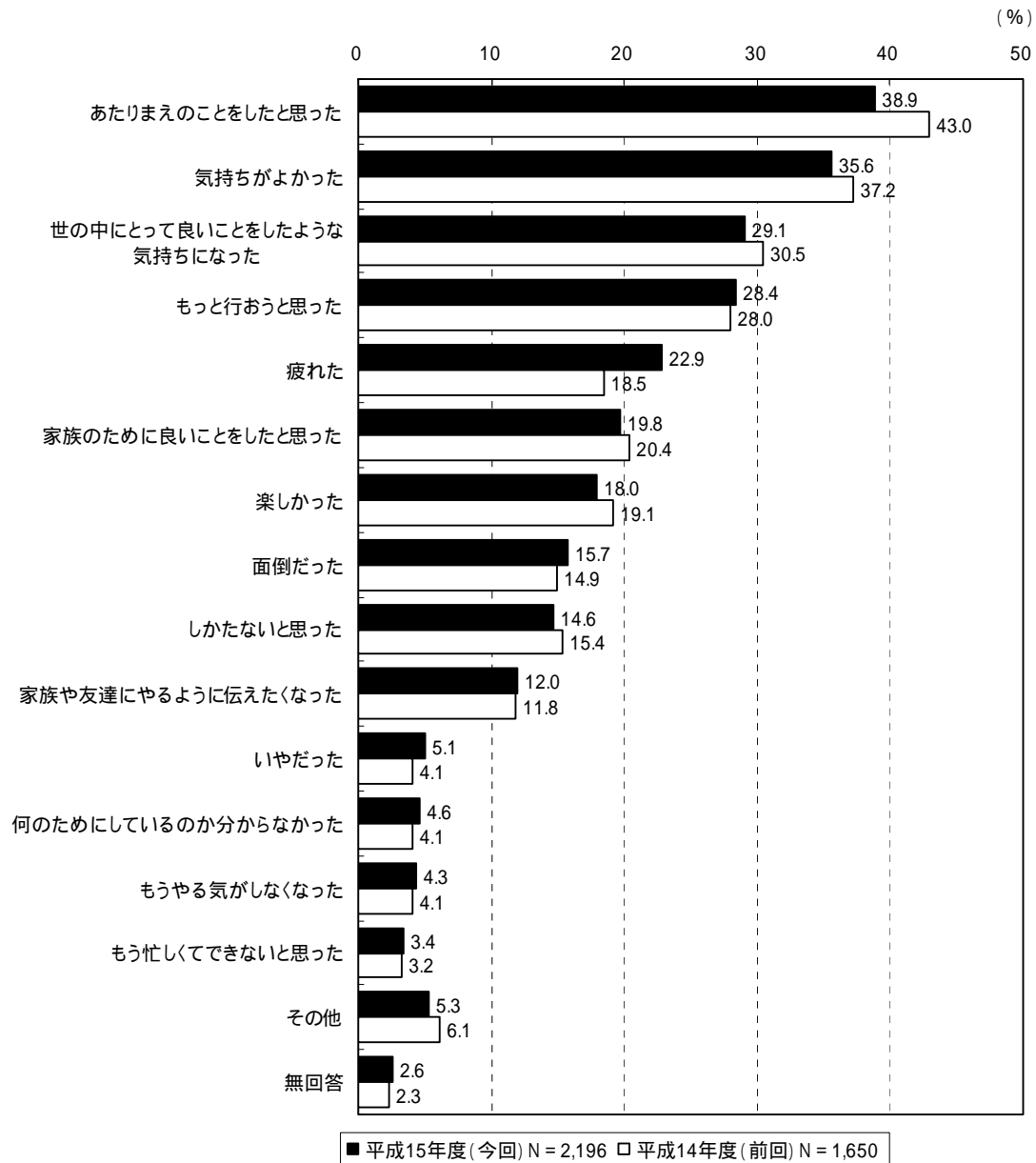
(%)

	全 体	学齢別		性別		都市規模別			
		小 学 生	中 学 生	男 子	女 子	政 令 指 定 都 市	1 0 万 人 以 上	1 0 万 人 未 満	町 村
調査数	2,196	1,262	934	1,094	1,091	230	1,008	376	582
母親にいわれたから、母親がやっていたから	42.8	44.7	40.3	37.5	48.4	41.3	46.8	42.6	36.6
学校で環境について勉強したから	34.1	46.8	17.0	29.3	39.2	22.6	37.0	30.6	35.9
テレビで見たから	33.4	39.1	25.7	31.6	35.1	25.7	35.1	34.3	32.8
環境問題に関心があったから（自分からすすんで）	23.7	28.3	17.6	23.5	24.2	20.9	23.9	20.7	26.5
本で読んだから	18.0	24.5	9.3	17.3	18.8	13.0	18.8	21.0	16.7
父親にいわれたから、父親がやっていたから	17.6	19.4	15.1	19.2	16.0	14.8	17.7	20.5	16.7
地域の行事に参加したから	15.6	18.9	11.0	13.5	17.6	7.0	16.2	16.2	17.5
学校の行事に参加したから	14.4	14.7	14.1	14.8	14.1	12.2	15.1	13.3	14.9
祖父母にいわれたから、祖父母がやっていたから	11.9	15.8	6.5	10.4	13.4	6.1	10.4	17.8	12.9
近所の人やっていたから	8.9	11.7	5.1	9.1	8.7	7.0	9.3	8.5	9.3
兄弟姉妹がやっていたから	5.3	6.1	4.3	4.4	6.3	3.9	5.8	5.9	4.8
友達がやっていたから	5.1	6.6	3.2	5.1	5.1	3.0	5.2	5.9	5.5
特にない	14.2	9.0	21.2	18.4	9.9	24.3	12.9	12.2	13.6
その他	6.1	5.4	7.1	5.9	6.3	3.9	6.7	6.9	5.3
無回答	1.7	1.2	2.4	2.3	1.0	3.0	1.3	2.1	1.5

4 - 3 環境保全行動の際の気持ち（問6）

環境保全行動を行った際の気持ちは「あたりまえのことをしたと思った」「気持ちがよかった」「世の中にとって良いことをしたような気持ちになった」「もっと行おうと思った」が上位にあり、環境保全に前向きな姿勢があらわれている（図表6）。

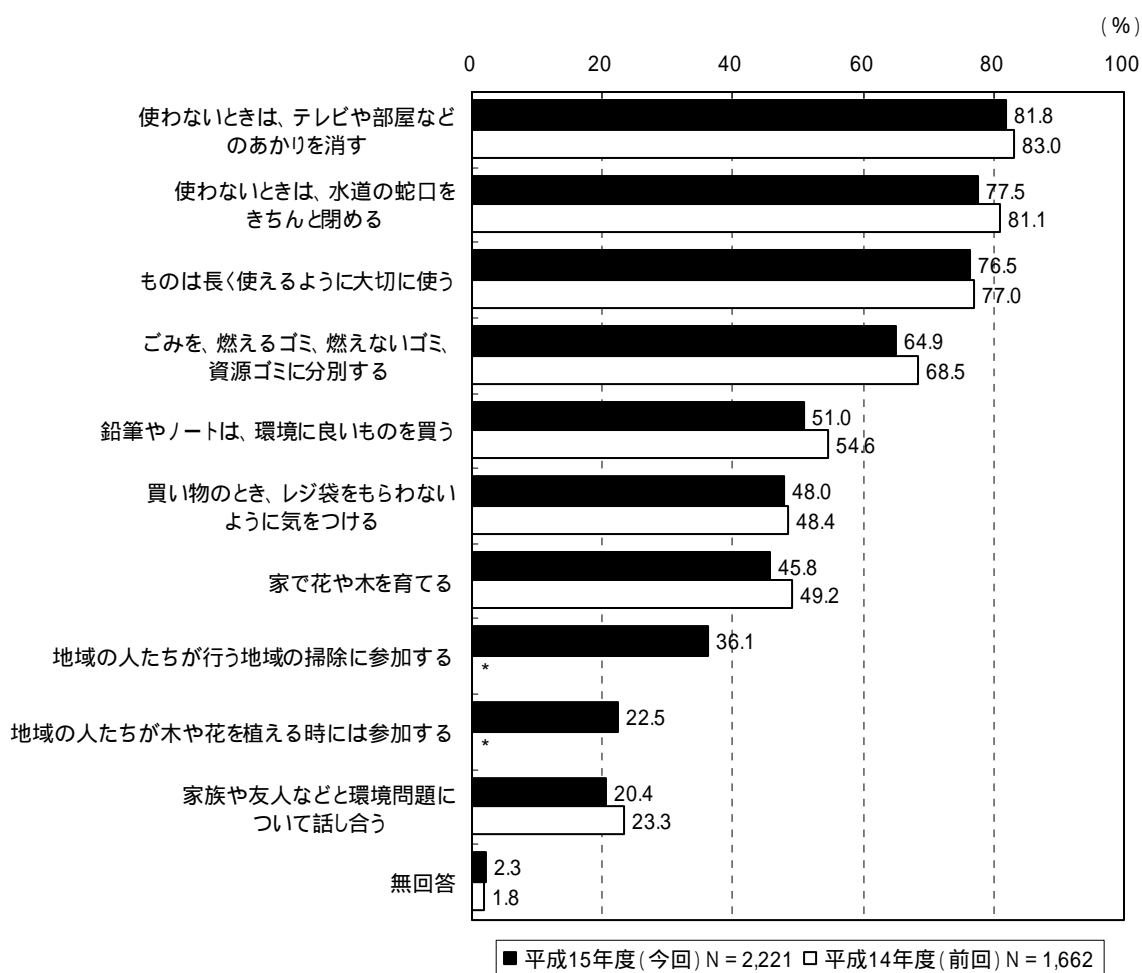
図表6 環境保全行動の際の気持ち（複数回答）



4 - 4 環境保全行動に対する今後の意向（問7）

環境保全行動に対する今後の実施意向は、「使わないときは、テレビや部屋などのあかりを消す」「使わないときは、水道の蛇口をきちんと閉める」「ものは長く使えるように大切に使う」の行動意向が8割前後と高い（図表7）。

図表7 環境保全行動に対する今後の意向（複数回答）（全体）



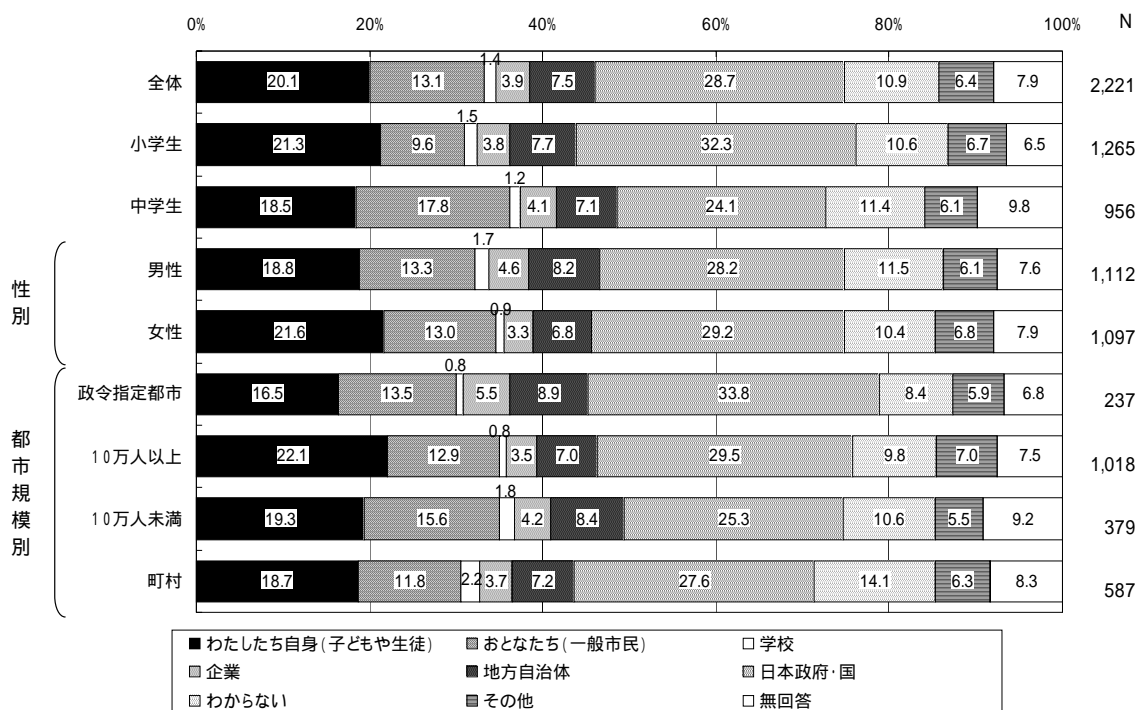
注) *印の2項目は、前回調査ではあわせて聞いたため、比較できない。

5. 環境保全に重要な役割を担うもの（問8）

環境保全に重要な役割を担うものとしては、「日本政府・国」をあげた割合が29%で最も高い。

また、小学生は「日本政府・国」(32%)、中学生は「おとなたち（一般市民）」(18%)とする割合がやや高い（図表8）

図表8 環境保全に重要な役割を担うもの（学齢別、性別、都市規模別）



6. 環境問題に関する情報の入手経路（問9）

環境問題に関する情報は、「テレビ・ラジオで」（72%）、「学校の授業や先生から」（65%）が2大情報源となっている。

小学生は中学生よりも「学校の授業や先生から」（72%）、「本から」（35%）、「インターネットで」（26%）、「家族・親せきから」、「学校の遠足や見学で」（各23%）、「マンガから」（19%）、「臨海学校、林間学校や自然教室」（20%）、「動物園・水族館・博物館で」（18%）が多く、逆に中学生は小学生よりも「テレビ・ラジオで」（77%）が多い（図表9）。

図表9 環境問題に関する情報の入手経路（複数回答）（学齢別、性別、都市規模別）

	全 体	学齢別		性別		都市規模別			
		小学 生	中学 生	男 子	女 子	政 令 指 定 都 市	1 0 万 人 以 上	1 0 万 人 未 満	町 村
調査数	2,221	1,265	956	1,112	1,097	237	1,018	379	587
テレビ・ラジオで	71.8	68.1	76.7	71.7	72.1	73.8	70.9	71.5	72.7
学校の授業や先生から	65.1	72.1	55.8	60.4	70.0	56.1	68.0	67.8	61.8
新聞や学習雑誌で	35.3	35.3	35.3	34.9	35.7	35.9	34.9	31.7	38.2
本から	32.3	34.9	28.8	33.2	31.5	30.8	32.4	33.8	31.7
インターネットで	19.7	25.5	12.0	18.8	20.9	16.0	19.5	18.2	22.5
家族・親せきから	18.6	22.8	13.1	16.5	20.9	13.1	19.8	22.4	16.2
学校の遠足や見学で	16.6	23.4	7.5	15.7	17.5	10.1	17.8	16.4	17.2
マンガから	16.0	19.2	11.8	18.6	13.6	16.0	16.2	19.5	13.5
臨海学校、林間学校や自然教室 で	14.7	20.0	7.6	14.9	14.5	10.1	16.9	20.8	8.7
動物園・水族館・博物館で	12.9	17.6	6.6	12.7	13.1	12.2	14.4	13.7	9.9
地域の団体で	6.3	7.3	5.1	7.4	5.4	5.1	7.0	6.1	6.0
友達から	4.7	6.3	2.6	5.8	3.7	6.8	4.2	5.5	4.3
講演会や展示会で	4.5	4.7	4.2	5.4	3.6	4.6	4.1	5.5	4.4
塾で	4.3	5.6	2.5	5.6	2.9	3.4	4.8	3.7	4.1
市役所・区役所などで作った本で	4.1	4.9	2.9	4.7	3.5	4.6	3.5	3.7	4.9
家族旅行などで	3.4	5.0	1.3	3.5	3.3	4.2	3.0	4.0	3.2
部活や課外活動で	3.3	3.5	3.0	4.0	2.5	4.2	2.8	1.8	4.8
児童館・コミュニティーで	2.9	4.0	1.5	2.7	3.2	3.0	3.1	3.2	2.4
その他	2.5	2.8	2.2	3.5	1.5	2.1	2.4	2.6	2.9
無回答	1.5	0.9	2.2	1.8	1.0	1.7	1.1	1.6	2.0

7. 学校における環境保全活動への参加経験（問10）

学校における環境保全活動への参加経験としては、「環境問題について、先生の話聞いた」（62%）、「ごみ処理場や下水処理場などの施設を見学した」（50%）「地域の掃除やごみ拾いなどに参加した」（46%）が約5～6割で上位となっている。

また、都市規模が10万人未満の場合、全般的に活動が活発で、「環境問題について、先生の話聞いた」（75%）「植物栽培や動物の飼育、観察をした」（45%）「山や川などで自然の観察をした」（46%）「みんなで環境問題の解決方法について話し合った」（40%）が全体を9～15ポイント上回っている（図表10）。

図表10 学校における環境保全活動への参加経験（複数回答）（学齢別、性別、都市規模別）

	全 体	学齢別		性別		都市規模別			
		小 学 生	中 学 生	男 子	女 子	政 令 指 定 都 市	1 0 万 人 以 上	1 0 万 人 未 満	町 村
		(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
調査数	2,221	1,265	956	1,112	1,097	237	1,018	379	587
環境問題について、先生の話聞いた	62.0	70.1	51.4	58.7	65.7	51.9	63.2	75.2	55.7
ごみ処理場や下水処理場などの施設を見学した	49.5	63.6	31.0	46.3	53.1	30.8	53.7	54.4	46.7
地域の掃除やごみ拾いなどに参加した	46.3	45.5	47.3	43.3	49.3	43.9	43.2	54.1	47.5
植物の栽培や動物の飼育、観察をした	36.3	47.1	22.0	33.2	39.7	32.9	37.4	45.4	29.8
山や川などで自然の観察をした	33.6	45.6	17.7	32.0	35.3	27.4	34.2	45.6	27.3
みんなで環境問題の解決方法について話し合った	25.3	36.3	10.9	24.6	26.0	17.3	24.7	39.8	20.4
牛乳パックやケナフなどで紙づくりをした	19.2	21.7	15.9	17.3	21.3	23.2	24.3	15.0	11.6
川や湖の水、空気や雨の状態について調べた	18.7	23.4	12.6	18.3	19.2	19.4	18.8	19.5	17.9
夏休みなどの自由研究で環境のことを調べた	11.6	10.6	12.9	12.1	11.2	21.1	10.2	10.8	10.6
特になし	10.0	6.2	15.1	13.5	6.4	16.5	7.8	9.5	11.8
その他	3.4	4.1	2.5	2.7	4.2	13.1	2.5	0.8	2.9
無回答	2.6	0.6	5.1	3.1	1.9	3.8	3.0	2.1	1.5

8. 「こどもエコクラブ」の認知（問11）

「こどもエコクラブ」の認知率は24%で、小学生は32%と高い（図表11）。

図表11 「こどもエコクラブ」の認知（全体、学齢別）

